

『新しい公共』づくりをめざした市民と民主党の政策形成プロジェクト」
第1回意見交換会

<参考資料>

1. 「アドバイザー派遣事業」について
 - ・機関誌「みみずく」第25号より . . . p 1
 - ・機関誌「みみずく」第26号より . . . p 2

2. 「ひょうごん福祉ネット」について
 - ・機関誌「みみずく」第25号より . . . p 3～4
 - ・機関誌「みみずく」第26号より . . . p 5
 - ・パンフレット →別添

3. 市民活動センター神戸について
 - ・年次報告書（2008年度）より . . . p 6～7

2010年1月28日

特定非営利活動法人 市民活動センター神戸（KEC）

理事・事務局長 実吉 威



KECのアドバイザー派遣事業がスタートしました

この4月から、福祉医療機構（WAM）の助成を受けて「KECアドバイザー派遣事業」(*)がスタートしました。子育て系をはじめとする福祉系の8つのNPOに対して出張型の経営支援を行う事業で、今年度のKEC事業の大きな柱の一つとなっています。

*正式名称「子育てNPOの経営支援と仕組み作り事業」

◆組織の体力強化をお手伝い

NPOの多くは活動資源が十分でなく、つい目の前の活動に追われ、中長期のビジョンや計画づくりが後回しになりがちです。そんなNPOの活動現場に継続的に伺い、小手先の改善でなく、組織の体力・経営力そのものを強化するお手伝いをしようというものです。

◆経営支援と仕組みづくりの両方

事業の目的は3つあります。一つは、派遣先のNPOが中長期の展望と計画、つまり経営戦略を持てるような支援をすること。支援先には「公的制度の外のニーズ」に対する支援団体を選んでおり、当然、その活動条件は厳しいものです。創業メンバーの尋常でない努力に支えられており、これを持続的な組織と事業にする」と自体が大きな課題です。

二つめはそのような活動への支援手法の確立です。中間支援とよく言われますが、その支援手法はまだ未確立で、現場のNPOからは中間支援組織というのによく分からな

いという声も聞かれます。半年なり一年なり、一定の限られた時間の中でどのような支援をし、意味のある成果を挙げられるのか。一年間で「確立」までは行かないかもしれませんが、少しでもその手法を整理したいと思います。

三つめが、右のような「制度外」の活動について、その必要性、公益性を検証し、それが社会的に成り立つための条件・環境整備を検討し、提言すること。制度外の社会的ニーズに対して、多くのNPOが自発的にサービス提供を行っていません。それらの中には人間としての最低限の基本的必要(Basic Human Needs)を満たして人としての尊厳を守っているような公共性の高い活動も少なくありません。そういった活動には税財源によって支えられるべきものがあるはずで、それをどのように区別し制度化すればいいのか、

その問いへの端緒を得られればと考えています。

◆根本的な支援から実際のな支援まで

支援の内容は、中長期計画の策定、組織体制のビジョンづくり、人材確保と多岐にわたりますが、一緒に組織の将来ビジョンを検討したり広報ツールを考えたたり、さまざまな「打つべき手」を列挙した上でその優先順位を検討したりと、大きな経営計画づくりから個々具体的な事務局業務のお手伝いまでレベルも様々です。

後者の一例を挙げれば、ある団体のリクエストに応じて作業しているのは「ボランティア募集の方法の整理」。マスコミヤ各種サイト、ボランティア情報の集約を業務として行っている団体など、ボランティアを仲介するチャネルは実は数多くありますが、まだごく一部の団体にしか活用されていません。その「チャネル情報」を集約し活用

ただこうと整理中です。(これは他の団体にも役立てていたでけるでしょう)

派遣されるアドバイザーはKECの役員(今田忠理事、八十庸子、実吉)のほか、類似の事業を過去にも行ってきた(特活)神戸まちづくり研究所の東末真紀さん。加えて、専門的な課題については、会計Ⅱ荻野俊子さん(NPO会計支援センター)、労務Ⅱ石田信隆さん(NPO労務サポーター)、資金調達Ⅱ江口聡さん(しみん基金・KOBÉ)という強力な支援メンバーが控えています。

二月には成果報告会を予定していますので、どうぞお越し下さい。(ホームページ上でご案内します)

KEC事務局長 実吉威

- ◆派遣先団体
- (特活) こどもコミュニティケア (神戸市/保育)
 - (特活) ぴっぴ (同/保育)
 - (特活) はらっぱ (西宮市/保育)
 - (特活) ウィズネイチャー (同/野外活動・子育て)
 - (特活) リーフグリーン (同/高齢者・障害者)
 - (特活) 淡路島ファミリーサポートセンター
まあるく (淡路市/高齢者・障害者)
 - W・Sひょうご (神戸市/女性)
 - (特活) 女性と子ども支援センター
ウィメンズネットこうべ (同/女性)

NPOの経営改善を支援します

「アドバイザー派遣系」事業の報告

「アドバイザー派遣系」事業って？

「困っているのだが、何に困っているかわからず説明できない」「問題は色々あるが、何を解決すべきか分からない」というNPO経営者の相談相手となり、話を聞く中から、課題を整理し行動計画を具体化していきます。ときには役員や現場のワーカーらとともにワークショップを行い、団体の価値や方向性を共有するお手伝いもします。その積み重ねの中から、「5年後にどういう団体になっていたか」のイメージを形づくりに、それへの具体的な行動を二歩踏み出すことがこの事業の目標であり、成果です。

企業よりも複雑です。人も多様であり、その経営は

KECはここ数年、「アドバイザー派遣系事業」というべき事業に力を入れてきました。これは団体の事務所にお邪魔して、現場で課題を点検しながら一緒に解決策を考え、アドバイザーするというもので、05年以来、累計で34団体への支援を行ってきました。

これは、ある種の「相談」に似たものですが、通常の相談と違うのは、窓口で受ける「待ち受け型」ではなく、団体の事務所に向う「出前型」の形を取っていることです。

企業へのコンサルティングと違ってNPOの場合は、売上や利益、シェアといった明確でシンプルな目標が設定しにくいのが特徴で、「目標」や「課題」を整理するところから始まります。

NPOは市場というフィルターを通さない(あるいは一部しか通さない)分、淘汰も起こりにくく、主観的要素が評価軸となりやすい傾向があります。また、ボランティアという存在があつて関わ

具体的、継続的なアドバイスができるという利点があります。一方で人件費・間接経費等にかかりのコストがかかります。派遣一回あたり2〜3万円程度のコスト(間接経費を含む)は、業務改善のコストとして利用団体の全額自己負担にするには、まだNPOの体力が伴いません。それを(継続性をどう考えるかという課題はあるとして)委託費や助成金という形で大部分肩代わりするという構造になっています。

「困っているのだが、何に困っているかわからず説明できない」「問題は色々あるが、何を解決すべきか分からない」というNPO経営者の相談相手となり、話を聞く中から、課題を整理し行動計画を具体化していきます。ときには役員や現場のワーカーらとともにワークショップを行い、団体の価値や方向性を共有するお手伝いもします。その積み重ねの中から、「5年後にどういう団体になっていたか」のイメージを形づくりに、それへの具体的な行動を二歩踏み出すことがこの事業の目標であり、成果です。

ますます力を注ぎます

05年からの「神戸市アドバイザー派遣事業」がその源流です(※)、その有効性が認識され、今年度から下記のように助成事業としても拡がってきました。

これらの事業では、私たち地域の中間支援NPOのスタッフがNPOに向くため、現実的、

※さらに前身は、00年からKECが緊急雇用対策事業の中で行った旧アドバイザー派遣事業(神戸市委託)

「アドバイザー派遣系事業」の比較表

	①KECアドバイザー派遣事業 (正式名:子育て支援NPOの経営支援と 仕組み作り事業 2008年度~)	②NPO中長期ビジョン サポート事業 (2008年秋~)	③神戸市アドバイザー 派遣事業 (2005年度~)	④神戸市小規模作業所等 事業サポーター制度 (2007年秋~)
実施主体と 助成・委託	市民活動センター神戸(KEC) 福祉医療機構(WAM)助成	市民活動センター神戸 ひょうごボランティアプラザ助成	神戸市委託(市民参画推進局) ※主幹事=神戸まちづくり研究所	神戸市委託(保健福祉局) ※主幹事=神戸まちづくり研究所
趣旨・目的	子育て系ほか福祉系NPOの経営支援、 支援の仕組み作り、および社会的提言	中規模NPOの中長期計画 作りのサポート	NPOのマネジメント(何でも) 支援	小規模作業所の運営支援
対象	子育てNPOを中心とする福祉系(制度 外)のNPO こどもコミュニティケア びっぴ はらっぱ ウイズネイチャー リーフグリーン 淡路島ファミリーサポートセンターまあるく W・Sひょうご 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	CAPセンターJAPAN 福祉ネットワーク西須磨だんらん 頭部外傷や病気による後遺症を もつ若者と家族の会兵庫支部	◎福祉ネットワーク西須磨だんらん ◎W・Sひょうご ◎頭部外傷や病気による後遺症を もつ若者と家族の会兵庫支部 アスロン ウイズネイチャー 颯爽JAPAN 信親 (◎=KEC担当団体)	◎萌友=for you ◎共働作業所すずらん ◎ワークホーム兵庫 サレムファクトリー 地域活動支援センターおぼんざい菜 ほほえみ じゅうしん須磨寺 にじのかけ橋 みくら作業所福祉の店 花 プレゼント・ガーデン 妻わら帽子 工房彩 (◎=KEC担当団体)
主な成果	人材育成計画づくり、財政計画づくり、広報の 強化、中長期ビジョンづくり、団体内コミュニ ケーションのためのワークショップ実施など	中長期ビジョンづくり、財政計画 づくり、団体内コミュニケーション のためのワークショップ実施など	中長期ビジョンづくり、財政計画 づくり、団体内コミュニケーション のためのワークショップ実施など	新体系(自立支援法)への移行 に関する相談、法人化支援など
エリア	兵庫県近辺	県内	神戸市内	神戸市内
総派遣回数	34回	10回(予定)	40回	40回
事業費	534万円(予算)	70万円(予算)	250万円(予算;全体で)	250万円(予算;全体で)
備考 *事業実施面 の課題など	・額が大きく直接経費は十分確保。しかし常 勤職員の人件費がカバーされない ・検証のための費用を十分に確保したため、 事業の吟味がしかりできた	・総額は大きくないが、人件費と 若干の間接経費がカバーされて いる	・委託のため、人件費はもちろん 間接経費もカバーされている ・事業の検証にかかる費用は十 分でない	・委託のため、人件費はもちろん 間接経費もカバーされている

介護保険の枠外事業のあり方を探る

「ひょうごん福祉ネット」発足

あなた自身や家族が高齢になり、生活していくのにサポートが必要となったとき、そのサービスは誰が担ってくれますか？ 介護保険が2000年に登場したとき、これからの福祉は地域社会が担うんだ、と言われました。たしかに、家族だけ(しかも圧倒的に女性)にその担い手が求められた旧来の状況から比べると、ホームヘルプのサービスを受けることは普通のことになってきました。でも、ご存じのように介護保険の利用は「要介護度」の判定によって利用量が決められ、必ずしも生活に十分なサービスが受けられるわけではありません。

一方、介護保険制度の始まる前から、地域では住民同士の支え合いとしての福祉サービスが行われてきました。神戸・阪神地域ではとくにあの震災の後、各地にそうしたグループが誕生しました。しかしボランティアから始まったこれらの活動を、事業として成り立たせるのは容易ではありません。

介護保険制度だけでは地域福祉を十分に担えなくても、住民同士の支え合いが持続可能なしくみとして事業化できれば、両者が相互補完しあって本当に地域に必要な福祉サービスが提供でき、ひとは安心して老いを迎えることができるのではないか。そんな思いをもって、兵庫県南部で福祉事業に取り組むNPOが手を携えていくことになりました。

福祉事業の先進事例に学ぶ
今年6月8日、三宮の勤労会館に80人近い参加者を集めて「地域に必要なもう一つの公共・NPO」と題する講演会が開催された。主催は「ひょうごん福祉ネット」、講師はNPOによる福祉事業の先進地・愛知県知多半島から「地域福祉サポートちた」の代表理事・松下典子さん。
松下さんからは歯切れよく20年にわたる「新しい地域の資源づくり」の経験が語られた。熱心に耳を傾けている聴衆のほとんどは現に福祉活動を担っている人たちであり、まさにわが意を得たりという思いと、それがなかなかできないのよ、という思いが交錯していたことだろう。



熱心な参加者であふれた設立記念講演会

【設立の経緯】
2006年9月 第1回福祉(介護)系の活動を行うNPOの連絡ミーティング開催(参加11名)。以後概ね毎月1回、会場持ち回りでミーティング開催
2007年2月 知多半島福祉系NPO視察ツアー実施、「地域福祉サポートちた」松下典子さんに出会う
2008年3月 正式発足
2008年6月 総会・設立記念講演会「地域に必要なもう一つの公共・NPO」開催
2008年7月 学習会「ケアマネジメントにおける枠外サービスの現状と課題」開催

情報交換からネットワークへ
06年の秋、福祉に携わるNPO十団体ほどが情報交換を目的に集まったところ、事業内容・対象、料金体系(介護)制度事業と制度外事業とのすみ分けまたは組み合わせ、人材の確保、などなど話題は尽きず、あつという間に3時間余りが過ぎてしまった。お互いに顔と名前は知っていても、それほどまとまったかたちで情報交換する機会はこれまでなかったのだ。
同業者ではあるが地域が違えば競合相手とはならず、お互いの手の内を見せ合うと共通の悩みも多いことがわかった。

誰かの抱える疑問について他の誰かがその場で答えて解決できるなど、じつに有意義な集まりとなったのである。団体の責任者で忙しい人ばかりであるにもかかわらず、翌月の再会を約してようやく記念すべき第1回ミーティングはお開きとなった。
これを皮切りに、おもに高齢者対象の福祉事業、中でも介護保険の制度外事業に取り組むNPOの情報交換と相互研鑽の場として、ほぼ月1回のペースで「HYOGON福祉ネット(以下、福祉ネットと表記)」(*)の活動が始まった。

(*) HYOGONひょうご市民活動協議会、県内NPO・NGOの緩やかなネットワーク。ここへの参加団体の中から「福祉ネット」の気運が高まり、分科会という位置づけで活動が始まったためこの命名となった(正式発足時に「ひょうごん福祉ネット」と改名)。

「枠外」事業とは何か

— 現状と課題 —

枠外事業はどんなものかを説明しよう。提供するサービスは、まず介護保険制度で言う「訪問介護」事業にあたるもの、すなわち依頼者の自宅

(構成団体)

【神戸市】(特)ケアット、(特)神戸障害者自立支援福祉協会、(特)COM総合福祉研究所、(特)市民活動センター神戸、(特)東灘地域助け合いネットワーク、(特)ひょうご・まち・くらし研究所、(特)福祉ネット星が丘、(特)福祉ネットワーク西須磨だんらん、(特)ゆいまーる神戸、(特)リーフグリーン、わくわく神戸

【明石市】(特)市民サポートセンター明石

【三木市】(特)アイアイネット

【西宮市】(特)都市生活コミュニティセンター

【川西市】(特)さわやか北摂

【淡路市】(特)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく

(このほか、個人会員5名、賛助会員6名)

(役員)

代表	日埜 昭子	(特)福祉ネットワーク西須磨だんらん 理事・事務局長
副代表	田坂 美代子(事務局長)	(特)市民サポートセンター明石 代表理事
	村山 メイ子(広報)	(特)東灘地域助け合いネットワーク 理事長
	吉本 加津子(会計)	(特)リーフグリーン 理事長
監事	山口 一史	(特)ひょうご・まち・くらし研究所 常務理事

※KECは立ち上げまでの事務局を担い、現在はサブの「神戸事務局」を担っている。

での家事援助や入浴介助などがあるが、これは保険が利用できる人であれば利用した上で持ち時間を超える部分、あるいはそもそも「自立」判定を受けたが援助が必要な人へのサービスなどである。さらに、介護保険では提供されない、

家具の移動、衣服の入れ替え、話し相手、ゴミ出し、草抜き・庭の手入れ、ペットの世話、入院時の介助などなど、団体によって少しずつ異なるが、多岐にわたるサービスがある。これらには日常不可欠なもの、とそうでもないものが含ま

れるが贅沢と言うほどでもなく、QOLの向上という観点で言えば必要なものだろう。これらのサービスは介護保険と同様、依頼を受けたコーディネーターが登録された活動者(枠内事業で働くヘルパーと区別して「ワーカー」と呼ばれることが多い)の中から適任者を選び、派遣することになるが、介護保険と大きく異なるのはおカネのしくみである。介護保険なら利用者は1割負担、つまり事業所にはその9倍が介護報酬として支払われるが、制度外では利用料が収入のすべて。ワーカーとコーディネーターの人件費、その他事務局経費を賄って事業を成り立たせるには、介護保険に比べて相当高い利用料を利用者に負担してもらわなければならない。それが「助け合い」の精神から外れるし、何より利用者が離れてしまう。

現在は1時間八〇〇円、二〇〇円の利用料を受け取り、そのうちの6〜8割程度をワーカーに支払い、残りを事務局経費としているところが多い。しかしたとえば利用料千円/時間で二五〇時間の仕事をしたとすると、事務局に残るの

は5〜10万円程度にすぎない。二五〇時間というのは、現在の福祉ネット参加団体の平均的な月間利用時間数である。ボランティア精神で始まった助け合いの事業なので、これまでは携わる人々が無理をして何とかやってきた。しかしサービスを提供する側も齢を重ね、家庭の事情を抱え、無理が利かなくなっていく。利用する人々にとって必要なサービスを提供している自負はあるから、何とかしてこれを継続できるしくみに変え、次世代に引き継いでいかなければならない。

ここに福祉ネット参加団体共通の悩みがある。

福祉ネットのめざすもの

「地域福祉サポートちた」の松下さんは、枠外サービスの重要性を強調しつつ、企業や行政との連携、さらには社会ビジョンを描くことの必要性を説いた。「現場からは10年後の社会が見える」、だから発信していかねければ、と。知多でも試行錯誤があつたことを述べ、仲間として激励してくださった。

発足したばかりの福祉ネットは、まだ描くべきビジョンも手探りだが、枠外事業だけでなく介護保険事業者ともネットワー

クの輪を広げ、利用者はもとより行政や企業も含めた地域全体にその存在意義を訴えていくことが活動の第一歩だ。そして、「こんな地域に住みたい」という夢の実現をめざす。

代表・日埜さんのお話

介護保険制度の改正に次ぐ改正の中、ようやく制度枠外事業の必要性が語られるようになってきました。十数年前から、住民同士支えあう福祉サービスを、行うNPOがそれぞれ自発的に個性あふれる活動をしてきました。介護保険との連携、非営利活動の運営、協力者の確保など自団体だけでは解決できない問題について情報交換ができるネットワークの必要性を感じていました。HYOGON活動の中で、1年余りの準備期間を経てここに「ひょうごん福祉ネット」が実現しました。それぞれ自分の団体の活動を持ちながらの活動ですが、枠外事業が社会的に認められ継続するために力を合わせネットワークの輪をひろげ、「年をとっても住み良いコミュニティづくり」をめざしたいと思っています。

(KEC事務局 八十庸子)



ひょうごん福祉ネット、活動全開!

県内の福祉系NPOで立ち上げた「ひょうごん福祉ネット」が元気に活動しています。共同広報パンフレットの発行、合同開催の「担い手養成講座」等々、ネットワークならではの活動をみんなで手分けしながら展開しています。参加団体募集中です!

前号でもお伝えした「ひょうごん福祉ネット」が元気に活動中です。

この2月には17団体が載ったきれいな共同パンフレット(写真)が完成、さつそくこれを営業ツールとして各方面に配り歩いています。また、5月から、5団体が協力して「地域福祉・担い手養成講座」を開催します。

▼ネットワークでやれること

このネットワークは元々、制度外の福祉活動(粹外サービス※)を担うNPOが、互いに情報交換、課題共有をすることで活動内容をより充実させようと集まったもので、「単独ではやれないことも力を合わせれば」を合い言葉に、後掲のような活動を2年半積み重ねてきました。

団体間のネットワークというのは難しいのですが、福祉ネットは、どこかが強気に主導するのはなく、あくまで参加団体の主体性を大切に、みんなで時間をかけて「オープンでフラットなネットワーク」を作ってきました。事務局を維持する資源をどう確保するかがもう一つのポイントですが、助成金のほか、構成団体が少しずつ事務を分担することで乗り切ってきました。参加団体の主

体性こそが最高の資源だったので

※介護保険等の公的サービスでは受けられない、見守り、話し相手、庭仕事、その他の日常生活サポートを、地域ボランティアを組織し継続的、安定的に行う活動。現状ではNPO・市民の自発性のみ依存しており、その継続が大きな課題となっている。



▼これからの課題

今後はいよいよ、神戸市・兵庫県の福祉行政への政策提案を行っていかねばなりません。粹外サービスを行っている団体は他にもあり、それらとの連携を深くしていく必要があります。折しも神戸市では、新たな福祉総合計画

の策定作業が新年度から始まります。行政当局との対話を進めてゆきたいと思えます。皆さんのご参加・ご支援をお待ちしています。

お問い合わせは KECまたは福祉ネット事務局(西須磨だんらん) 078-731-2430 まで。

なおこの活動には、トヨタ財団、しみん基金こうべ、ユニバーサル財団から助成を頂きました。資金面の支援ももちろんですが、重要だが直接的な薄いネットワーク活動が社会的に認められたということに一同大いに勇氣づけられました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。(実吉威)

これまでの経緯と今後の予定

- 2006年9月 ひょうご市民活動協議会(HYOGON)の分科会として準備会発足。以後概ね毎月1回、会場持ち回りでミーティング開催
- 2007年2月 知多半島福祉系NPO視察ツアー
- 2008年3月 「ひょうごん福祉ネット」としてHYOGONから独立し、正式発足
- 6月 設立記念講演会「地域に必要なもう一つの公共・NPO」開催(参加72名)
講師: 松下典子さん(NPO法人地域福祉サポートちた代表理事)
- 7月 学習会「ケアマネジメントにおける粹外サービスの現状と課題」開催(参加35名)
講師: 神谷良子さん(NPO法人神戸ライフ・ケア協会理事長)
- 9月 学習会「コミュニティを考える～介護保険のこれからと粹外サービス」開催(参加69名)
講師: 荒川英雄さん(厚生労働省関東甲信越厚生局企画調整課長)
- 2009年2月 共同広報パンフレット発行(1万部)
- 5月～ 「地域福祉・担い手養成講座」を県内5ヶ所で合同開催
※助成: トヨタ財団(2008年4月～2009年3月; 80万円)
しみん基金・KOBÉ(2008年10月～2009年9月; 42万円)
ユニバーサル財団(2008年11月～2009年10月; 100万円)

ひょうごん福祉ネット構成団体

- 【神戸市】(特活)ケアット、(特活)神戸障害者自立支援福祉協会、(特活)COM総合福祉研究所、(特活)市民活動センター神戸、(特活)花たば、(特活)東灘地域助け合いネットワーク、(特活)ひょうごまち・くらし研究所、(特活)福祉ネット星が丘、(特活)福祉ネットワーク西須磨だんらん、(特活)ゆいまる神戸、(特活)リーフグリーン、わくわく神戸
- 【明石市】(特活)市民サポートセンター明石
- 【三木市】(特活)アイアイネット
- 【西宮市】(特活)都市生活コミュニティセンター
- 【川西市】(特活)ざわやか北摂
- 【淡路市】(特活)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく
(このほか、個人会員7名)

I. KEC2008年度のあらまし

多くの方々のご支援により、この1年も市民活動の支援組織として活発な活動を進めることができました。皆さまの温かいご援助やご指導に心からお礼申し上げます。

2008年度はこれまでに蒔いてきた種が育ち、つぼみが少しずつ花開いてきた1年でした。年度当初に立てた「中期方針」では、

- 1) NPOへの経営支援の強化
- 2) NPOを支える仕組みの変革
- 3) ネットワークづくりの促進
- 4) これらを支える経営基盤、とりわけ財政の強化

を重点項目としていましたが、それぞれの領域において大きく前進し、地域の間接支援組織として必要とされる活動を活発に行うことができました。

この1年間の活動・組織両面の主なトピックスは次の通りです。

①経営支援の事業が充実してきました

ここ数年力を入れてきた個別団体への継続的な支援（アドバイザー派遣）ですが、利用団体には好評で、いくつもの団体に年度を越えて継続利用していただいています。また、支援の有効性がいくつもの助成団体にも認められ、拡がってきました。内容も改善を重ね、4月以降は個別支援プラス同じ分野の団体の合同研修という手法に取り組んでいます。

②ネットワーク活動と、それを基盤とするアドボカシー（政策提言）に力を入れました

「HYOGON」の分科会として生まれ3年目となる「ひょうごん福祉ネット」。参加団体も増え、ますます活発になってきています。神戸市行政との関係も構築中で、他のNPOとも連携して2009年度に「介護保険・制度外サービス」の実態調査事業を行う準備を進めています。NPOが担っている「制度外」の重要性を明らかにし、そこから制度化を働きかけていくという、「本丸」によいよ進んでまいります。KECはその立ち上げ時から裏方として重要な役割を果たしてきました。

また、高齢者支援以外の分野でもネットワーク構築の支援やアドボカシーについて協力要請があり、次の分野にどう取り組むかも重要課題です。

③重要でユニークなフォーラム、研修等も実施しました

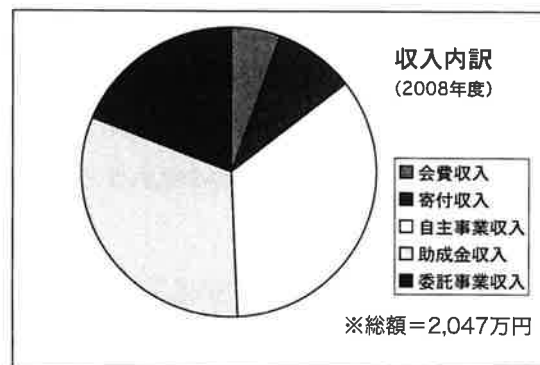
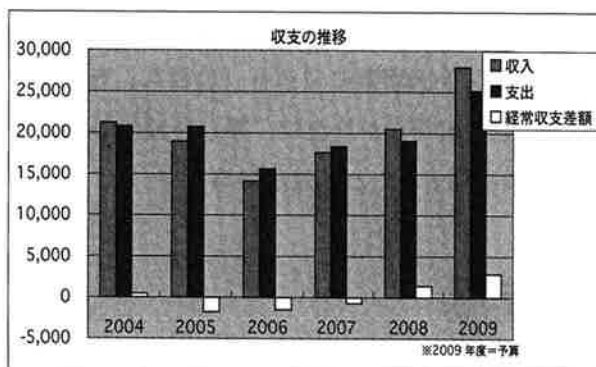
「助成財団シンポジウム」、「自主財源を強化する7つの方法」セミナーという2つの集会・研修は満員御礼となり、NPOのニーズに合ったユニークな事業を実施できました。また、住友ゴム工業（株）との協働で社員向けのボランティア活動情報の提供や、356点・23団体に及ぶ中古備品の配布を実施するなど企業との協働も始まっています。

④NPOの総合活動拠点「神戸元町NPOポート」が充実してきました

神戸・西元町の「秋毎ビル」1階・3階をお借りして運営している共同オフィス「神戸元町NPOポート」ですが、3月に「参加型開発研究所」が入居、これではほぼ全室・ブースが埋まりました。1月にKECが1階から3階に移転したこともあって人の出入りも活発になり、KECを含め全12団体が入居するNPOの総合ビルになってきました。

⑤財政基盤も強化されつつあります

財政面ですが、お陰様で3年続きの赤字を脱し、2008年度はわずかですが黒字を出すことができました。大きな行政委託なしで運営している中間支援組織は全国的にも皆無に近く、経営は楽ではありません。しかしその分経営の自由度は高くなり、ユニークで先駆的な事業や、きちんと収益を上げられる事業の開発に取り組むことができました。ここ数年の厳しいコスト管理や事業選択、自主事業開発などの経営努力により、単年度の黒字だけでなく、継続的に収支を均衡させる基礎体力が少しずつですがついてきたように思います。それもすべて多くの方々のご協力の賜物です。厚くお礼申し上げます。



⑥体制強化が大きな課題です

上のように好調だった2008年度ですが、少数のスタッフの過重な働きに依存していたことは否定できません。次世代への交代を準備するためにも、質（働き方と給与水準）・量（人数）両面における改善が大きな課題です。そのためにも、収益力向上の努力はなお一層進める必要があります。

残念ながら社会はますます閉塞感を深めていますが、社会の混迷は、新しい時代への産みの苦しみでもあります。そんな時代の中、期待を背負って10年前に登場したNPOですが、その発展はまだまだこれからです。困難な時代の中、市民の自治意識は確実に高まってきており、その中でNPOが果たすべき・果たせる役割は決して小さくありません。KECは、社会課題にしっかり取り組み、課題解決をできるNPO、社会変革をもたらすNPOの成長を支え、自らもその一員でありたいと考えています。そのためにこれからも努力してまいります。

以下にこの1年間のKECの歩みをまとめました。忌憚のないご意見、ご批判をいただくとともに、今後ともKECの活動を支えていただきますようお願い申し上げます。